

授業科目	授業番号： 126			担当者	竹本 寛秋
	日本文学史・近代Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書）</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 —メディアの変革と「文学」—</p> <p>第 2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 —白樺派、新思潮派—</p> <p>第 3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立</p> <p>第 4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩</p> <p>第 5回 昭和の文学2：主知主義文学</p> <p>第 6回 昭和の文学3：プロレタリア文学</p> <p>第 7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 —転向文学、日本浪漫派、四季派—</p> <p>第 8回 昭和の文学5：戦争と文学</p> <p>第 9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 —戦後文学の出発—</p> <p>第 10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 —第三の新人の登場—</p> <p>第 11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 —三島由紀夫の死—</p> <p>第 12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 —村上龍、村上春樹—</p> <p>第 13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 —塚本邦雄、岡井隆、寺山修司—</p> <p>第 14回 現代の文学：現代文学のゆくえ</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%）、筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修、隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。